

教育目標：心豊かに たくましく伸びていく子供



干布小学校だより

7月号 H30.7.27

天童市立干布小学校

校長 三好 義宏

挑戦する夏休みに

明日から子供たちは25日間の夏季休業に入ります。7月中旬より大変気温の高い日が続き、まさに子供たちは暑さと闘いながら学校生活を過ごしておりました。明日からは、ご家庭での生活にお戻しすることになり、学校よりは涼しい環境で生活ができるのではと、ひと安心しております。

夏休みは、家庭での生活が基本となり、時間的余裕があるかと思われまます。担任からは、課題なども出されており、それをこなすことも大切ですが、他にも時間を有効に使って何かに挑戦できる休みであってほしいと考えます。例えば、好きな作家の本をたくさん読んでみる、お父さんの農作業を1週間手伝ってみる、理科の観察を3週間通して行ってみる、4種目の泳法をマスターしてみるなど。学校での学びを生かした、素敵で有意義な25日間にしてほしいものです。水での事故、交通事故に気を付け、また生活リズムが乱れないようにご指導いただければ助かります。

第1回いじめ防止対策委員会開催

干布小学校第1回いじめ防止対策委員会を17日に開催しました。右記の方々を平成30年度から31年度まで2年の任期で、委員を委嘱しました。お忙しい中ですが、皆様よりご快諾をいただき、お力をお借りいたします。

話し合われた内容は、①山形県の改訂を受けた本校の「いじめ防止基本方針（概要）」の説明、②これまでのいじめに関する取組（経緯）の説明、③6月に実施したいじめの実態調査の結果及び報告、です。委員から頂戴しましたご意見を紹介し、今後のいじめ防止指導に役立ててまいります。

- ・資料を示す開かれた学校の姿勢、発見のアンテナを高くすること
- ・学校と保護者が相談しやすい関係づくりを続けてほしいこと
- ・これまでの取り組みへの温かい評価
- ・中学年児童指導の難しさと外部団体との連携の大切さ
- ・数字だけでは実態がなかなかわからないこととご自身の体験談

さて、6月いじめ調査の簡単な報告をさせていただきます。児童アンケートに、「いじめをされている」に一つでもチェックを入れた人数は51人でした。いじめの様態は、「ひやかしやからかい・悪口脅し・嫌なことを言う」と「軽くぶつかられる・遊ぶふりをして叩かれたり蹴られたり」が多く、全体の68%を占めました。いじめ認知のきっかけは、「学校のアンケート調査など」と「本人からの訴え」で、全体の85%を占めました。学校では、個別面談での聞き取りや、状況に応じた適切な指導を行っておりますが、すべての事案が解決しているわけではありません。粘り強く見守りと指導を続けていきますので、ご理解をお願いいたします。

いじめ防止対策委員（校外）

結城 一幸	原町
奥山 義美	上荻野戸
花輪 叶	石倉
水戸部秀昭	原町
鈴木 雄介	駐在所
奥山 泰子	上荻野戸

（敬称略）



求める子供像 「自ら考え、学び続ける子供・思いやりをもち、つながりを深める子供」をめざして

子供の様子と教員の指導の意図がわかる、学級通信からの抜粋を紹介します。今回は2学年です。

2年生 沼澤先生 国語「漢字かるた遊び」

今までに習った漢字を使ってかるたを作りました。漢字を書くときに字の大きさや形などをいつも以上に気を付けて書いていました。「漢字を書く勉強になったし、素早く漢字を読み分ける勉強になってよかった。」という声が多く聞こえてきました。また、「これから習う漢字もかるたにして、またかるた遊びをしたい。」という意欲的な声も聞こえてきました。

このかるた作りで、漢字の正しい読み書きを学びました。さらにかるたとりで、漢字のへんやつくりなどの形を素早く理解することができました。今回の経験を生かして、これからも新しく習う漢字も丁寧にバランスよく書いていこうと話しました。

校内研実践

7月20日に1年生と3年生の校内研究会を実施しました。3年生の西塚先生は、算数科の余りのあるわり算の適用問題づくりの授業をしました。前の時間まで、「余りが出る場合、答えが『プラス1』になるか『切り捨て』になるか」を学習しました。その習ったこと（既習事項）を活かして、問題づくりをする場面です。本校の研究で大切にしている考え方は、学んだことを生活に広げられるようにしていこうということです。西塚先生の言葉にすると、「問題を能率的に解決し、その結果を日常生活の問題場面に照らし合わせて正しく処理する力」を子供に指導することをねらっています。

果たして子供たちは、自分の生活場면을想起しながら、余りの処理を考えながら問題づくりに取り組みました。S男さんはキャンディーの袋詰め、R子さんは本の読書日数、K男さんはクッキーの袋詰め、K子さんはあめの箱詰めの問題を考えて発表しました。自分の生活に根ざしながら、算数の考え方を使うことができていました。また、写真のようにS子さんとM子さんは、それぞれの考えを交流する場面もありました。暑い中ですが、集中力をもって学習する干布小の子供に、参観者の先生からお褒めの言葉をいただきました。



暑さに負けず頑張ったね

本校より市総体水泳競技会に3名、山形県小学生陸上競技大会に1名、児童が参加しました。両日とも炎天下で、大変な状況のなか、立派に競技に取り組みました。4名の感想を紹介します。

<水泳>

- 3年 工藤 颯さん「ぼくは、クロールのうでをかくのがんばりました。」(50m自由形)
- 6年 奥山拓紀さん「バタフライの自己ベストタイムを出せてよかったです。」(50mバタ・自由形)
- 6年 東海林蓮さん「息つぎの練習をしていたので、クロールを速く泳げました。応援もしっかりできました。」(50m平・自由形)

<陸上>

- 6年 矢野零奈さん「もう少し、しっかりと練習をすればよかったと思います。40mを飛ばしている人がいたので、練習をもっとしたほうがよいと思いました。」(ジャベリックボール投)

